

担当医等の意見

(低体温、めまい)リレンザ:疑われる
 (低体温、めまい)ペレッククス:否定できない
 重篤(障害)が認められた他病院にて、オラセフ、オルヂス、ケフコゴデ処方され、服薬2日後にプレ
 7年前に上気道炎にて他病院にて、オラセフ、オルヂス、ケフコゴデ処方され、服薬2日後にプレ
 ショック状態(体温:34.2度、血圧低下、悪寒、めまい)になったことがあり、鎮痛解熱剤の使用
 の有無を確認したが、ペレッククス3回、計3日服用したのみであり、今回の低体温の原因は鎮
 痛解熱剤の副作用とみならず、リレンザそのものによる副作用と考えられた。NSAIDで副作
 用を起こした既往のある患者には慎重投与とするのが望ましいと思われる。

報告企業等の意見

本剤投与後に39度から36.8度まで急激に解熱したことにより、一時的に体温調節が困難になっ
 た可能性を完全否定できませんが、併用薬であるペレッククスの成分(サリチルアミド、及び
 アセトアミノフェン)には、重要な基本的注意の項に、副作用歴のあるオルヂスと同様の「過
 度の体温下降、虚脱、四肢冷却等が現れることがあるので、特に高齢者及び高齢者又
 は、消耗性疾患の患者においては、投与後の患者の状態に注意する」旨の記載があり、ペレック
 クスが関与した可能性も考えられます。尚、現時点では、NSAIDで副作用の既往がある患者に
 関して、他の患者と比較して薬剤使用時に安全性に問題があるという情報は入手しておりませ
 ん。

今後の対応

今後とも、安全性情報の収集・伝達に努力し、同様の事象の発現状況をみて対処する所存です。

送信者による診断名/症候群及び/又は副作用/有害事象の再分類

第一次情報源により報告された副作用/有害事象

低体温、めまい

累積報告件数・使用上の注意記載状況等

1. 使用上の注意の記載状況
 リレンザ:記載なし、PDR:めまい、ABPI Datasheet:記載なし
 ペレッククス、アラバリック:めまい
 他剤:記載なし
2. 累積報告件数
 低体温:国内1件(本報告を含む)、外国0件。めまい:国内2件(本報告を含む)、外国2件。
3. 患者背景および事象発現時の状況について追加情報を入手したため追加報告致します。

引用文献

資料一覧

MedDRA

Version (10.0)